



心の色ニュースレター

June . 2026

心の色が 埼玉新聞に
掲載されました！



6月の事例

人と話す機会が少なく、
不安を抱えやすい方への支援

【ご相談内容】

精神疾患と認知症の影響により、人と話す機会が少なく、不安を抱え込みやすい状況でした。また、お薬の飲み忘れや片付けが難しく、ご家族も多忙なため、受診同行などの支援が困難でした。訪問ヘルパーの導入も希望されていましたが、ご本人の拒否が強く、サービス利用につながらない状況でした。

【心のかの支援】

- ・傾聴やコミュニケーションによる不安の軽減
- ・服薬状況や生活環境の整理を支援
- ・主治医、関係機関との情報共有、連携
- ・ご本人様との信頼関係を築きながら、訪問ヘルパーの役割を丁寧に説明
- ・受診同行など、ご家族の負担軽減を支援

【支援後】

継続した訪問により、不安を相談できる環境づくりにつながりました。また、訪問ヘルパーへの抵抗感も和らぎ「利用してみてもいいかな」と前向きなお気持ちがかかるようになっていきます。

精神科に特化し支援

上尾市拠点に訪問看護

今月開設

精神疾患や認知症などを重点的に支援する「訪問看護ステーション心の色」が6月から、上尾市を拠点に営業を開始した。代表の清水聡さんは「精神科に特化した訪問看護ステーションはまだ限られている。利用者や家族が住み慣れた地域で安心して生活できるように、寄り添った支援をしていきたい」と抱負を語る。

清水さんは寄居町出身。これまで精神疾患に特化した訪問看護の管理者・教育係として4施設の立ち上げに携わった経験を持つ。「コロナ禍以降、うつ病をはじめとする精神疾患が増加する一方、地域の受け皿が不足している」と

利用者の心の色に寄り添いたいと話す清水聡さん（提供）



指摘。また訪問看護を巡る不適切なケアや実態のない架空の診療報酬請求といった問題に「教育が徹底されておらず、気付きにくい不正に及んでいるケースも見られる」と現状を

嘆く。こうした状況を変えたいと思ひ、その第一歩として立ち上げたのが心の色だ。「精神疾患の方は日によって状態が変わる。しぐさや表情、部屋の様子を観察し、その時々に応じた接し方を判断しなければならぬ」と、利用者に伴走していく思いを名称に込めた。ホームページでは看護師の顔写真と名前を公開し、安心して問い合わせできる環境を整えた。「上尾を軸に、人口の多いさいたま市をはじめ、北本、桶川、伊奈などをカバーしたい」と展望を抱く。

（倉田祐介）

6月の活動報告

ケアマネ会への参加



伊奈町のケアマネ会に参加させていただき、ご挨拶の機会をいただきました。当日は、多くのケアマネジャーの皆様や他事業所・訪問看護ステーションの方と交流することができ、大変有意義な時間となりました。今後も地域の関係機関との連携を大切にしながら、ご利用者様・ご家族様へより良い支援を提供できるよう努めてまいります。

ひとこと



6/1よりスタートした心の色ですが、現在**21名**のご利用者様とのご縁をいただき、順次サービスを開始しております。

勇気を出して相談してくださった利用者様や、関係機関の皆様のご協力のおかげです。今後ともどうぞ、よろしくお願いいたします。